

もてなし茶

活動場所：5年1組教室、家庭科室  
 6月4日（火）13：55～15：00  
 提案者：大岩 恭子

1 本時にかかわる子どもの姿

4月から創造活動で清里区梨平へ繰り返し活動に出かけている。これまで、梨平で自然に親しんだり、田植えを行ったりした。また、梨平の方に手作りのプレゼントを持参して、1軒1軒あいさつに伺った。あいさつの際に「よく来たね」「ありがとう」と声をかけていただき、喜んだ。数日後、梨平の方から返事のお手紙が学校に届いた。子どもは驚くとともに、梨平の方とつながりができ始めたと感じている。

実践家庭科の活動では、コンロの使い方を確認しながらお茶（煎茶）を入れ、自分たちで飲んでみた。活動を振り返って、子どもは「今度は、梨平の方にお茶を入れておもてなしをしたい」という思いをもった。そこで、13日（木）に交流会を行うことにした。交流会では、自分たちのことを知ってもらうために、自己紹介をしたり、梨平の方と仲良くなるためにお茶を入れておもてなしをしたりする計画を立てている。

2 本時のねらい（本時における自分をつくり未来を拓く子どもの姿）

お茶を入れ、味わうことを通して、交流会のお茶を選んだり、仲間と考えを交流したりしながら、梨平の方とのよりよいかかわりについての自分の考えをつくる。

3 本時の構想

○交流会でもてなすお茶を選ぶ

自分たちでお茶を入れて飲んだ際には、「ちょうどよい濃さだ」「ちょっと濃すぎた」など、お茶の見た目や味に着目しながら振り返っている姿が多かった。煎茶は温度が高ければ高いほど、カテキンなどの成分が多く出やすく、苦みと渋みが多く出てくる。一方、温度が低いと渋み成分が抑えられ、旨み成分の割合が多くなるため、渋みの少ないお茶（甘みあるお茶）になる。そのため、お湯を湯飲みに入れて少し冷ましてから急須に入れるという入れ方がある。しかし、前時までの活動ではそのようにお茶を入れている姿はほとんど見られなかった。そこで、温度によって煎茶の味わいがどのように変わるのか、飲み比べをしながら味わう。また、水出し用の茶葉も用意し、必要に応じて冷たい煎茶も味わってみる。温度による煎茶の味わいの違いを確かめたり、冷たい煎茶も味わったりすることによって、入れ方や相手の好みにも目を向けられるようにする。

交流会の計画を話し合った際には、自分たちの思いや楽しみが優先し、梨平の方のことを思い浮かべて考えることは少なかった。交流会のお茶を選ぶことで、子どもは梨平の方の立場に立って考える。このように、交流会のお茶を選ぶ際に相手の立場に立って考えることで、よりよいかかわりについての自分の考えをつくる。

4 本時の展開

9・10M/全12M (65分)

時間	番号；子どもの活動 ・；子どもの姿	○；教師の手立て
3	1 交流会の内容を確認する。 ・梨平の人に喜んでほしいと話す。	○実際に比べながら確かめられるように、湯飲みを1人2個用意する。 ○火気の取扱に注意させ、安全面に配慮するよう促す。 ○必要に応じて冷茶も取り上げる。
3 2	2 入れ方を変えて煎茶を入れ、飲み比べをする。 ・熱いお湯で入れたお茶は渋いと話す。 ・一度湯飲みに入れた方が、甘みが増したようだ話す。 ・渋いお茶の方が好みだと話す。	
2 0	3 交流会での「もてなし茶」について考える。 ・温かいお茶の方が梨平の方は好きなのではないかと話す。 ・お菓子が甘いから渋いお茶の方がよいのではないかと話す。 ・気温が高くなってきたので、冷たいお茶がよいのではないかと話す。	○子どもの考えを整理しながら板書し、様々な視点から考えられるようにする。  ○仲間の考えも参考にしながら自分の考えを決めるように促す。
1 0	4 「もてなし茶」について、自分の考えを作文シートに書く。 ・梨平の方の好みを考えて、温かいお茶がよいと書く。 ・入れ方にも気を配りたいと書く。	

